

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272500638		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホームわたぼうし		
所在地	青森県上北郡おいらせ町木崎2592-7		
自己評価作成日	令和4年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和4年9月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体の老人保健施設で各サービスを提供しているため、サービスに応じた相談をスムーズに行うことができます。施設内での勉強会(eラーニング)が毎月あり、その後に理解度テストを実施し、職員の知識向上につながっています。現在コロナ禍ではありますが、感染対策を徹底しながら、外出行事の実施や老人保健施設内の他部署と合同行事で交流し、気分転換を図っています。災害時には他部署の職員が協力して支援できるよう連携しており、備蓄等も一括で管理して、非常災害時の対応体制を築いています。見守りセンサー導入により、夜間帯のトイレ誘導等、利用者様のペースに合わせて介助することができ、自動ラップポータブルトイレを利用することで時間の短縮につながり、ケアの時間が多くなっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの敷地内に併設の介護老人保健施設や通所リハビリテーション、有料老人ホーム等があり、包括的に支援ができる体制となっている。また、ホームの利用者に対しても、管理栄養士や作業療法士から専門的なアドバイスがあり、一人ひとりに合わせた介護を提供している。ホーム内は季節を感じる手作りの作品や利用者書いた習字を飾っており、全体的に家庭的で温かい雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、グループホームの理念を唱和し、日々のケアに取り入れて共有している。	「私たちは、地域の方と触れ合い、ゆったりと楽しく、安らぎのある生活環境を提供します」という理念のもと、家庭的な雰囲気の中で利用者が毎日楽しく生活できるように、職員は日々理念を反映したケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の病院を利用することで地域住民との会話となり、グループホームについて興味を持ち、聞いてくる方もいる。また、地域のいきいきサロンへ参加し、交流を図っている。	コロナ禍前は地域の祭りへ参加したり、施設でも祭りを開催する等、日頃から地域との交流は積極的に行われていたが、最近はコロナウイルス蔓延防止のため、地域のイベントはほぼ中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染予防を行った上で実習生の受け入れを行っている。また、実践者研修へも参加し、研修生への助言を行っている。外部の受け入れを行う際は、プライバシーに十分配慮している。地域の催し物に参加し、認知症の理解を深める取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面で利用者様の状態や行事、施設での取り組みについて報告している。書面での報告のため、不明な点は質問できるように工夫している。	現在は運営推進会議を2ヶ月に1回、郵送により書面で開催している。ホームの近況報告や取り組みについて報告を行っており、メンバーからの様々な情報や意見を今後のサービス向上に活かすよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナウイルスについての情報等をメールにてやり取りを行っている。実地指導時は役場からアドバイスをいただき、参考にして取り組んでおり、役場からの連絡等は職員に伝達して周知している。	運営推進会議には、町役場の職員も参加している。わからない事があればすぐ役場の担当者に電話で確認しており、日常の課題解決に向けて連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内でオンラインによる勉強会と理解度テストを実施している。身体拘束が行動抑制の悪循環であることを認識し、身体拘束は行っていない。帰宅願望がある時等は本人の言葉や行動を受容し、一緒に付き添っている。また転倒の危険がある時は環境整備の工夫等し対応している。	ホームでは定期的に研修を行っており、職員は皆、身体拘束の内容やその弊害について理解している。また、日頃から身体拘束は行わないという共通の認識のもと、日々のケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内でオンラインによる勉強会と理解度テストを実施している。虐待がみられた時の対応方法について学んでいる。思いやりのある言葉遣いで接することができるよう、接遇についても勉強会を実施し、力を入れて取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加している。今後、必要に応じて利用者様やご家族様へも情報提供していきたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時は相談を交え、生活状況を見学していただき、説明を行っている。不明な点については、その都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は利用者様の近況報告を行い、ご家族様の意見や要望を聞き、サービスにつなげている。また、「皆さんの声」という窓口を設け、苦情等の対応を施設全体で検討し、改善をしている。	日々のケアを通じて、利用者から意見を出してもらえるように工夫している。また、運営推進会議には家族の代表も参加しており、外部へ意見を話せる機会を確保している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、わたぼうし会議を実施し、意見や情報交換を行い、職員から出た意見や要望は実行するよう努めている。	ホームでは月1回職員会議を設けており、職員が運営について等、意見を出せる機会を設けている。また、毎日の申し送りでも様々な意見を出し合っており、より良いケアの実践ができるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制は、職員個々の都合に配慮している。勤務変更の場合は職員同士の互助により調整している。個々に業務の担当を受け持ち、やりがいを持って業務に励んでいる。迷った時は助言・指導する機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の能力に合った研修への参加をしている。研修後は研修報告書を作成し、日々のケアへ活かしたり、必要に応じて伝達講習を行っている。年に1回、同法人によるスーパーバイザーとの面談があり、助言をいただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との情報交換、情報収集の場へ参加し、交流を行っている。また、コロナウイルスについての情報交換をメールで行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった時は、状態について情報収集を行い、本人とコミュニケーションを図りながら観察している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の相談があった際は、なるべく利用希望者様やご家族様と面談を行い、身体状況や思い、希望、ニーズ、不安を把握するよう努めている。また、信頼関係を築くことを意識し、ご家族様が気兼ねなく不安や困り事を話せるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、利用希望者様やご家族様に何が必要かを見極め、対応できる事は柔軟に対応し体制を整え、対応できない事は説明して方策を検討し、提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的でゆったりとしたホーム作りを意識しており、共に暮らす利用者様全員を尊重し、言葉で伝えている。また、利用者様の得意な事を把握し、力を発揮していただけるよう環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時に連絡や近況報告を行っている。また、不安や困り事への相談に乗り、利用者様を共に支える関係を作るよう、馴染みやすい雰囲気に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	情報収集に努め、馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。また、感染予防策を行ったうえで馴染みの人と会えるよう工夫している。必要に応じて他部署へ知人に会いに出掛けたり、電話ができるように支援している。	入居時に利用者や家族から聞き取りし、生活歴や馴染みの人・場所等の把握に努めている。家族からの電話のとりつぎ等で、これまでの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良好な関係を築いていけるように、利用者様の個性や人間関係を把握し、仲介役や話題作り等、気配り、声掛けに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や退居時は心情に配慮し、不安や困り事には傾聴している他、必要に応じて相談員と連携し、支援につなげている。環境や暮らし方の継続性に配慮してもらえるよう、退居先へ利用者様の状況や生活歴、ケア等の情報を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様や親しい人からの情報収集をはじめ、日頃の利用者様との会話や行動から常に把握に努めている。また、毎月のカンファレンスでは全職員で共有、検討している。	職員は利用者との日頃のコミュニケーションの中から、本人の思いや意向が把握できるよう努めている。また、家族や関係者からの情報を基に職員で話し合い、利用者の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には関係者から情報収集をしたり、ご家族様へ情報収集シートを記入していただき、把握に努めている。また、日頃の本人との会話や行動パターンから生活歴や意向を引き出し、馴染みの暮らしや生活環境が継続できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートやセンター方式を活用し、1日の過ごし方や有する力、可能性の把握に努め、日々のケアへつなげている。また、日々のケアや会話から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回、また、状態が変化した場合は居室担当者を中心に情報収集を行ってモニタリングを行い、専門職の意見も含めてカンファレンスを開催している。また、日頃ご家族様へ現状報告、相談を行い、本人の意向を尊重したうえでそれぞれの意見を出し合い、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は本人及び家族、介護職員の他、併設施設の管理栄養士や作業療法士等の専門職からの意見を反映して作成しており、個別で具体的な計画となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り等の記入の他、グループホーム会議や朝のミーティング時に情報や気づきを共有している。必要時にはカンファレンスを行い、介護計画を見直し、統一したケアが行えるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況、ニーズに応じて自施設の外出支援を利用する等、柔軟に提供できるよう取り組んでいる。また、ご家族様の要望に応じて必要な外部の支援の情報収集をし、提案を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のいきいきサロンに参加し、人的ネットワーク組織の構築に向けて取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはこれまでの受療状況を確認し、希望する医療機関を受診できるよう支援している。定期受診の他、必要に応じて専門医への受診支援や訪問診察の支援を行っている。また、状況に応じて利用者様やご家族様からの意向を把握し、ご家族様と同行している。受診結果は利用者様、ご家族様と共有が図られている。	入居時にこれまでの通院歴を把握し、入居後も希望する医療機関を受診できるように支援している。訪問診療による歯科治療も行っており、入居者に必要な医療を受けられる体制である。通院方法や受診結果の報告についても、利用者や家族の納得が得られている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の来所時は、受診結果や身体状況、気づきを報告し、助言をいただいている。急変時には併設施設の看護師との連携や訪問看護師への連絡を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、現状や今後の支援について病院関係者との情報交換を行ったり、必要時には主治医を交えて、ご家族様と一緒に面談も行っている。また、相談員の関わりを含め、連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は職員間で話し合い、現状に沿ったケアを行っている。また、ご家族様へは入居時や定期的に、事業所でできる事を十分に説明しながら方針を共有し、理解を得ている。重度化した場合は相談員や様々な関係機関と情報を共有し、不安が生じないようスムーズな対応を行っている。	入居時に重度化した場合や緊急時の対応について説明しており、利用者本人や家族、主治医や訪問看護ステーション等とも話し合い、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各マニュアルや緊急時フローチャートを作成しており、全職員に周知している。また、全職員が定期的に救命救急の研修を受講し、施設内でも勉強会を開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内で委員会を設け、消火器や避難路の確保等、設備点検を定期的に行っている。消防士の立ち会いのもと、様々な想定で避難訓練を行っている。災害発生時に備えて、母体施設で非常食等を用意し、定期的に確認している。	避難訓練は年に2回、併設施設と合同で行っており、消防署の立ち合いもある。災害発生時に備え、非常食や暖房器具等を用意している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに寄り添った声掛けや対応を行っている。対応に困った時は話し合いの場を設け、改善に努めている。また、食事・入浴・排泄時の介助は利用者様の人格を尊重した上で、入浴は一人ひとり行い、排泄時は戸をしめる等、羞恥心に配慮しながら安全に行っている。	利用者への呼びかけは名前に「さん」付けで統一しており、一人ひとりの人格を尊重したケアを心がけている。職員は勉強会を通じて守秘義務や個人情報の取り扱いについて注意している他、プライバシーにも配慮したケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の選択が広がるような声掛けを意識し、サポートしている。何か課題が表出した際は必ず本人の思いや希望を伺っている。また、必要に応じて話しやすい環境作りを行い、思いや希望を引き出すように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「散歩に行きたい」「入浴は明日にしたい」等希望が聞かれた際は可能な限り希望に沿った支援をしている。日頃から希望や思いを伺い、それらに合わせた支援やケアを行うように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう、清潔感や季節に合った衣類選びを一緒にあったり、希望時は散髪の支援を行っている。また、衣類や整容の乱れには、さりげなくサポートを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生会や行事の時はお楽しみメニューとし、行事食を提供している。また、季節を感じられるよう、季節の食材を使った料理を提供している。その他、外食やテイクアウトメニュー、外でのランチ等、食事が楽しくなるよう工夫している。食事中は会話も含め、楽しめるように心掛けている。	職員が献立を作成しており、利用者の好みを把握し、嫌いな物がある場合は代替食を提供している。なるべく利用者が自分で食べられるように食器の色を変えたり、自助具を使用してみる等、工夫して食事の自立を促している。屋外でバーベキューをしたり、定期的に行事食も提供する等、食事の楽しみを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量が少ない時は、好みの食べ物への代替えや、水分が進まない時は少しずつこまめに提供したり、ゼリーへ代替えする等、工夫している。食が進み、自力摂取ができるよう、介助方法や食器等の工夫を行っている。また、言語聴覚士や管理栄養士からも助言をいただき、ケアへ反映させている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全職員が口腔内の手入れの必要性を理解し、毎食後、口腔ケアの声掛けや見守り、サポートをしている。一人ひとりの力に応じたケア方法を行い、口腔状態の確認も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を参考に、排泄の間隔や排尿量に応じて、排泄の声掛けや水分量の調節を行っている。また、有する力が発揮できるようなオムツを選択し、自立に向けた支援を行っている。汚染時は羞恥心やプライバシーに配慮して速やかに行っている。	利用者一人ひとりの排泄記録を作成し、排泄パターンを把握することで、事前にトイレ誘導する等、排泄介助を行っている。オムツやパッドの使用についても随時見直しを行っており、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物による排便が困難な時は、便秘予防のお茶を提供したり、必要に応じてコントロールをしている。また、腹部マッサージや腹部を温める等、便秘予防の働きかけを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴の時間帯や方法、プライバシーに配慮して支援している。拒否が見られる時は時間や日を改めたり、職員を交代する等、工夫して支援をしている。	入浴は週2回行い、利用者一人ひとりの入浴習慣、入浴方法等の意向を取り入れている。利用者の身体状況によっては併設施設の特浴で対応する等、安心して入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前と午後に休息時間を設けている。また、利用者様の体調に合わせ、休息の声掛けをしている。夜間眠れない時には利用者様に寄り添って話を傾聴し、安眠につながる支援を行っている。昼夜逆転傾向にある利用者様に対しては原因を探り、日中の過ごし方や関わり方等を工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更がある際は、申し送りで全職員が把握し、症状や副作用の観察を行っている。また、飲み忘れや誤薬を防ぐために職員二人で確認した後、利用者様へ配薬、服薬介助を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にし、軽作業をお願いしたり、嗜好品を提供している他、雑誌、新聞等を読んでいただいている。また、花や野菜を植え、施設外での活動にも取り組んでいる。年間行事には利用者様に楽しんでいただけるような外食や誕生会等を取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年間の行事に散策ドライブを計画し、戸外に出かけて気分転換していただいている。気分が落ち込んでいる時は他部署にいるご家族様や親しい友達に会いに行き、窓越しで面会し、気分転換を図っている。	コロナ禍であるが、なるべく利用者の楽しみや気分転換につながるように定期的に外出行事を企画し、実施している。車椅子の方も福祉車両で季節毎の外出を行っており、利用者の楽しみや気分転換につながるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ショッピングでは利用者様と一緒に品物を選び、支払いを一緒に行っている。金銭は基本的にホームの金庫で預かっているが、お金を持っていたいという利用者様は、ご家族様と相談して一部を所持し、本人で管理をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様へ連絡したいとの希望には、ご家族様の都合や時間帯に配慮し、やりとりを支援している。また、職員と一緒に年賀状の作成も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただくよう、居室の入り口やホールには季節に合った装飾や花を飾っている。四季の気温に合わせ、暖房器具や加湿器を使用し、温度・湿度管理を行っている。また、テレビの音や光等にも配慮し、居心地の良い空間作りを行っている。	利用者はホールでテーブルを囲みながら会話を楽しんだり、習字をする等、自分のペースで過ごしている。ホールには折り紙や絵手紙等、手作りの作品が飾られており、全体的に温かい、家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで利用者様同士で世間話をしたり、自席で嗜好品を飲用しながら雑誌を読み、ゆっくりできるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には昔から使い慣れた馴染みの物や昔の写真、誕生日にいただいた色紙、ご家族様の写真を飾り、落ち着いて過ごせるよう工夫している。また、定期的に本人と話し合い、居室の環境整備を行っている。	利用者が入居前から使用していた馴染みの物を持ってきてもらうよう働きかけており、家族写真や遺影等の持ち込みもある。利用者の身体状況に合わせて部屋の模様替えを支援する等、毎日安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには分かりやすく案内の張り紙を貼ったり、難聴の方とはいつでも筆談でやりとりしやすいよう工夫を行っている。一人ひとりの有する力を把握し、安全で自立した生活が送れるよう環境を整えている。		